

火山噴火と一口で言っても、そのおこり方は山ごとにさまざまで、同じ山でも毎回同じ噴火をするとはかぎりません。

噴火の種類もさまざまなので、それに伴う災害もさまざまです。噴火による災害を知る上で、次の3つのポイントに注意して見ていくと良いでしょう。

- ① 避難までに時間の余裕があるか？
- ② どのくらいの範囲に影響がでるのか？
- ③ その影響があなたにとってどのくらい危険なのか？

下の表は、代表的な災害と3つのポイントについてまとめています。

	何がおきるか？	①避難までの時間	②影響範囲	③危険度
大きな噴石	50cm 以上の岩石が飛んでくる。	ない。 噴火と同時。	火口から 2～4 キロ。	非常に危険
火砕流	数百度の空気や水蒸気、小さな岩石などが一体になって流れてくる。	ない。 時速百数十キロにもなるため、逃げることは不可能。	広い範囲に及ぶこともある。	非常に危険
融雪型火山泥流	火山の熱により、山の雪がとがされて大量の水と土砂が流れてくる。	あまりない。 時速 60 キロを超えることもあり、一気に建物を飲みこむ。	広い範囲	非常に危険。 積雪期に注意
溶岩流	マグマが高温のまま地表を流れる。	比較的ある。	せまい。	非常に危険。
小さな噴石・火山灰	噴火により噴出した小さな固形物が風に飛ばされる	比較的ある。 降ってくるまでに、数分～十数分。	非常に広い範囲。最大で数百 km。	危険



雲仙岳の火砕流（平成6年6月24日）



十勝岳の融雪型火山泥流（大正15年5月24日）



伊豆大島噴火の溶岩流（昭和61年11月19日）

火山灰の危険度は小さいですが、航空機の運行に大きな支障をあたえるなど、火山から遠くはなれた地域に住む人々にも影響をあたえます。

「遠くの火山だから自分には関係ない」と思わず、日頃から火山災害とその影響範囲などをしらべておき、火山災害に出会ってしまった時に避難できるようにしておきましょう。